

平成30年度 南アルプス市立若草小学校 第1回自己評価書

若草小学校

校長 澤登 一浩

本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
 - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

2 全体評価

I 学校生活について

【学校生活について（前期） 考察】

◆「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と肯定的に感じている割合は、ほぼ9割で、児童・保護者とも高い。肯定的な回答で「Bほぼそう思う」の割合は保護者の方が高く、児童の結果とは若干の相違がみられる。否定的な回答をした児童は5.4%（昨年後期6.9%）である。行事の検討、学級づくり、個々に目をむけた支援等児童が楽しく学校生活を送れるよう改善を図りたい。

◆「クラスは目標に向かってがんばっている」について

一人一人が学級への所属意識をもち、存在感を味わうことは学校生活を送る上で大切である。アンケートにおいて、児童（肯定97.0%）保護者（肯定94.4%）と「クラスは目標に向かってがんばっている。」と感じている割合は高い。

◆「困った時に誰かに相談できる」について

不登校やいじめが社会問題になっている昨今、児童が一人で悩んだりせずに、相談できる人がいることが重要視されている。若草小では児童の89.2%（昨年後期89.2%）が肯定的な回答をしている。（保護者は93.0%）ただ児童で「Bほぼそう思う」や「Cあまりそう思わない」と回答している児童の割合も他と比べて多くなっている。否定的な回答した約1割の児童に目をむけながら、相談しやすい体制を構築し、児童が孤立しないような指導を心がけていく。

◆「あいさつ」について

児童会やPTAの協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。また昨年度から地域で「見守り隊」も結成し、安全確保を含め、あいさつ運動を推進してきた。児童の肯定的な回答は89.8%、保護者の肯定的な回答は88.8%でありあいさつに対する意識の割合は高い。学校、家庭、地域でも元気よくあいさつができるよう、今後もあいさつ運動の取組を充実させていきたい。

◆「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。（児童肯定97.0%、保護者肯定96.4%）これからも校内美化や環境整備に努め、愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

II 学習指導について

【学習指導について（前期） 考察】

◆「学校の授業がわかる」について

学校生活を楽しく送る上で「学校の授業がわかる」ことは、最も大切なことである。児童・保護者ともに肯定的な回答が9割以上あった。（児童肯定94.0%、保護者肯定90.2%）概ね満足できる結果

である。保護者の「A と思う」回答では、基礎的学力の定着が 36.2%，授業への集中 51.5%，発言する機会 55.2%であり、「A」の割合の低い基礎学力の定着について、課題に感じている保護者がいることがみてとれる。今後も保護者への理解と協力を得る中で、さらなる授業改善に取り組んでいく。また否定的な回答をした 6.0%（昨年度後期 5.7%）の児童に対し、授業を楽しく感じられるように、基礎基本を大切に、わかる授業を展開していきたい。

◆「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

「聞く態度の育成」は校内研究会等を通し、全職員で進めている。児童の肯定的な回答が多く 97.6%であった。（昨年度後期 97.5%）。保護者においても 95.8%と肯定的な意見が多い。今後、公開研究会等へ向けて授業づくりに取り組むが、食育の推進とともに、「聞く態度の育成」も今まで以上に進めたい。

◆「授業中の発言」について

発言をすることに対して、保護者は肯定的な回答が 97.0%あった。しかし児童においては肯定的な回答が 79.0%と少なくなる。また、高学年になるにつれ「A と思う」の割合が減ってくる。発達段階と関係するとは思いますが、長年取り組んでいる本校の校内研修会を確認し、授業づくりにおいて「聞く態度の育成」を含め、「自分の考えを伝え合う学習」を推進していく。

◆「宿題や自主学習」について

家庭学習の児童の回答は 92.6%（昨年度後期 90.8% 昨年度前期 84.8%）と改善が見られている。保護者の協力については 90.2%と昨年度後期 88.3%と比べ、肯定的な回答が若干増えている。改善傾向はあるが、他の項目からすると「B ほぼ思う」の割合が高い。今年度も、家庭学習強化週間を設け、保護者に呼びかけ連携を進めながら取組を行う。学力の定着において家庭学習はとても大切である。今後も家庭の協力を得られるよう取組を進めていきたい。

Ⅲ 生徒指導について

【生徒指導について（前期） 考察】

◆「きまりや約束を守る」について

学校生活の中で、学校の約束や決まりを守るとはとても重要である。児童も保護者もほぼ 90%以上が肯定的な回答（児童 96.4%，保護者 97.8%）をしており、満足できると結果と考えられる。一方、児童では、3.6%の否定的な回答をした児童も存在している。一人一人の児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

◆「友だちのいやがること、言ったりやったりしない」について

「友だちのいやがることを言ったり、やったりしない」について、児童では「していない」という肯定的な割合が 92.0%（昨年度後期 88.0%）。とほぼ 9 割である。保護者でも「いじめへの対応」に肯定的な 94.2%（昨年度後期 91.4%）と 9 割を超える。しかし児童の「そうは思わない」も 3.2%い

る。(昨年度後期 5.1%) 年 2 回の Q U 検査等行いながら、さらに丁寧に一人一人に関わっていくことが求められる。いじめや諸問題行動への対応の基本は未然防止、早期発見・早期対応である。これからも、「友だちのいやがることを、言ったりやったりしない」ことを大切に居心地がよいといえる学級づくりを目指したい。

IV 学校経営について

【学校経営について（前期） 考察】

◆「学校行事」について（保護者）

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されていますか」の項目について、肯定的な回答が 98.6%（昨年度後期 97.6%）であった。児童は行事から多くのものを学び、また充実した学校生活を送る上でも学校行事の果たす役割は大きい。内容も運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らしている。授業時数の確保から、今後取組やあり方を検討していくが、今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童、また保護者にも満足を得られるよう学校行事を展開したい。

V 研究について

【研究について（前期） 考察】

◆「校内研究会」について（教職員）

100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。

「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からない 6.0%、聞く態度に課題 2.4%、発言に課題 21.0%の児童へ、今まで以上にきめ細かな指導を行っていきたい。今年度は新学習指導要領の移行期にあたり、5・6年に週 2 時間、3・4年に週 1 時間の外国語、外国語活動が入り、また特別な教科道徳が始まり、授業数も増えた。そこへの備えや対応しながら、本年度は中巨摩食育推進校として、食育について年間を通し、継続的に研究していく。食育に関する講演会、食育を扱った道徳公開、さらに 1 月には公開研究会を行う。

◆「特別支援教育」について（教職員）

特別支援教育に対する校内支援体制は、肯定的な回答が 100%であるが、その内訳をみると「A と思う」が 20.0%、「B ほぼ思う」が 80.0%と B の割合が多い。本校には特別支援クラスが 5 クラスあり、普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。定期的に行われる特別支援校内委員会やケース会議を通し、児童の情報交換を密に行い、全職員が共通理解した上で支援を行う必要がある。また、全教職員がユニバーサルデザインを通じた授業づくりに取り組めるようにしたい。

VI 施設・設備・安全管理について

【施設・設備・安全管理について（前期） 考察】

◆「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは肯定的評価が96.8%高い評価を得ている。教職員も肯定的評価が100%と高いが、そう思うが18.2%ほぼそう思うが81.8%であり、施設の老朽化と共に安全点検等の大変さが伺われる。設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止にこれからも努力していかねばいけない。また児童自ら危険を回避できるような指導も行っていきたい。

◆「施設・設備」「教育備品」について

学校施設について肯定程な回答をした保護者は93.0%である。（Aそう思う43.2%，Bほぼ49.8%）昨年度後期91.2%（Aそう思う37.5%，Bほぼ53.7%）から若干増えている。しかし、学校を使っている教職員は否定的な回答が多く、81.1%（昨年度後期91.7%）であった。また消耗品など教育備品についても肯定的な回答が前期43.2%と低い。夏休み中にトイレそうじ、窓ガラスそうじ、床そうじが入り、保健室にシャワー室がついた。要望への成果もでてきている。長期的にお願いしていくもの、緊急性を要するものを見極め、要望を出していく。なお消耗品についても、大切に節約して使うことを心がけ、必要なものは予算を要求していく必要がある。

◆「登下校時の安全確保・避難訓練等」

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、本年度は全国で起きた事故・事件を受け、ブロック塀の確認や児童が一人で下校する箇所等の確認を行っている。教職員の肯定的割合は高いが「Bほぼ」（61.1%）の割合が多い。保護者も学校への肯定的評価は96.6%と満足できる結果となっている。ただ、保護者の協力に目を向けると肯定的意見の「Aそう思う」36.4%とやや低い傾向にある。根付いてきた見守り隊をさらに広げ、今後も保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いしながら、安全教育を推進していく。

VII 保護者・地域住民との連携について

【保護者・地域住民との連携について（前期） 考察】

◆「情報発信（よく目を通していか）」について

「お便りをよく読むか」、については肯定的な回答が96.6%である。食育のアンケートも、情報を学校から得ることが多いという結果もある。今後も、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、さらに協力し連携をとり、適切な情報を発信していきたい。

◆「授業参観 学校行事への参加」について

本校では、月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日

を設けている。授業参観や学校行事のもち方については肯定的評価が 98.2%の回答を得ている。本年度は行事を検討しながら見直しを行っていくが、保護者や地域も満足できることも視野に入れ、行事の工夫を行っていく。

◆「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

保護者からの相談や要望に適切に対応している、については肯定的な回答が 96.6%である。職員一人一人が努力している結果である。しかし 2.4%の保護者が否定的な回答（内Dそう思わない1.2%、昨年度後期C+D5.0%）をしている。保護者との関係を密にとりながら、これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていく。

◆「安全確保・見守り活動への関わり」について

見守りたすきを導入し、見守り隊を、中学校を始め地域に広げることができた。児童の登下校でも地域の人がたすきをかけているのを見かけることも多くなってきている。保護者の肯定的な回答は 86.2%であるが「Aそうおもう」が 36.4%「Bほぼ」が 49.8%と保護者の働きかけについて、改善できる余地がある。保護者をどう巻き込んで児童の安全を守っていくか検討していく。

3 まとめ（改善へむけて）

アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、学校施設等の一部例外があるものの、多くの項目で肯定的評価が否定的評価を上回っている。今後も改善・推進を図りながら、日常行われている教育活動を継続していくことが大切である。

今回のアンケート結果を踏まえ、今後さらに気を付けて取り組むべきことを以下にまとめた。

【学校生活について】

○児童の抱える困難さや不安に寄り添い（QU検査等を使いながら）、より良い人間関係が構築できるように、安心できる学校を目指して職員一丸となって取り組む。スクールカウンセラーも活用しながら、個に寄り添った丁寧な相談を心がける。

【学習について】

○中巨摩の食育推進校の指定を受け、食育と教科の関連、食生活の改善に取り組む。1学期：食育講演会（小中連携事業）、2学期：食育を扱った道徳公開、3学期：食育の公開研究会。

○新学習指導要領の施行に向けて、「思考力・判断力・表現力」を高める授業づくりを行う。教師や友だちの話を「聴く」ことを大切に、授業中の発言を増やす。校内研究と合わせ、学級・学年・ブロックで連携した系統的な取組を進める。安心して発表できる学級の雰囲気をつくることは、お互いを認め合うことにもつながり、いじめのない学級づくりにも通じている。食育も含めながら「学び合い」を大切にした校内研究のテーマをこれからも継続していく。合わせてユニバーサルデザインの授業づくりにも取り組む。

ユニバーサルデザイン：障害の有無，年齢，性別，人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。困難を抱えた児童生徒を含む学級の全員が一緒に参加し，理解を深めることができる授業づくりが今望まれている。

○学習内容の定着や学力の向上において，家庭学習は大事な働きをしている。現状では，家庭学習の状況には個人差が大きい。県から出ている家庭学習のパンフレット（学びの甲斐善8ヶ条）等利用したり，家庭学習推進期間の設定回数や内容を見直したりして，家庭学習を保護者の理解と協力のもとに連携していく。

【生徒指導について】

- 学級づくりを大切に，「学び合い」の授業づくりとともに，あたたかい人間関係の構築に努める。いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について，多くの目で確認できるような組織の充実も必要である。学校は，いじめはどの学校でも起こりうることを前提にしながら，いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。
- 防犯やあいさつを目的とした「わかくさ見守り隊」を自治会に協力を要請し，PTA活動でも取り組みながら，その成果が出てきている。今後も継続していく。児童会・PTA・地域の方々とも協力し合いながら，あいさつ運動・見守り活動を工夫し今後も推進していく。

【施設・設備について】

- 校舎が48年経ち，老朽化も進んでいる。床，窓，トイレ，プール等夏休みまでにクリーニングを終えた。また保健室にはシャワー室ができた。トイレ，暑さ対策等，まだまだ修繕の必要な箇所多い。長期的に対応を考えるもの，緊急性があるもの等，予算と相談しながら（要求しながら）これからも，児童が安全・安心して学校生活を送れる施設・設備を整えたい。